

「人生の交差点」～無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ



2026年春・84号

信条・世に媚びず ・ 粹にとらわれず
・ 言いたいことはハッキリ言おう

発行／馬場 雅夫

FAX：06-7879-6372

〒110-0015

東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL：https://lifecrossing.ne.jp/

E-mail：info@lifecrossing.ne.jp

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・
自分のことを書いています。

視点 倫理的な世界秩序のための憲章
千葉市川 さすらいの旅人 西見 恭平…2～3



中国特集

街中の外交官	梅田 純子…3
中国人知己	馬場 雅雄…4
中国人は二極化	田淵 豊…5
二人の中国人に訊く……………	6
寂しい一時出張	劉伯宣…7

昼は医者稼業、夜休日は反逆老人
埼玉共同病院消化器科医師 辻 忠男…8

衆院選 2026 特集

小川淳也新党首は期待できる 東京 台東区 三田 栄考…9
真冬の総選挙と厳しい船出 衆議院議員 菊田 真紀子…10
国民民主党から出馬しました 衆議院議員 国民民主党 井戸 まさえ…11
208総選挙の大敗北の深層について 立憲民主党 参議院議員 小西 ひろゆき…12
中道が団結して出発し希望の未来を 公明党都議会議員 細田 いさむ…20

核シェルター
金物関連業 外山産業㈱ 外山 晴一…13

菊池 寛 大阪 中央区 原野 通有…14

わたしたちはここにいる
TransgenderJapan 事務局長村田 峻一…15

江東区から日本の食を考える
江東区議会議員 吉田 要…16

どこに向かうか、一陣の風
信州小海町議員 渡辺 均…17

隠された「第四の被曝」
東京造形大学名誉教授 前田 朗…18

エッセイ「大輪逃す」森川澄子
編集余話／編集後記……………19



朝ドラ『ばけばけ』の小泉八雲(ラフカディオ、ハーン)が住んだ松江。彼も縁結びの出雲大社を訪れたことだろう。ちょうど角隠しをした新婦、新郎が結ばれていた。

単なる風景でない、人が写っているユニークな写真を募集しています



倫理的な世界秩序のための憲章

—平和と共存のための非核国家群宣言—

千葉市川 さすらいの旅人 西見 恭平

前文

度重なる停戦合意にもかかわらず、イスラエルとハマスの衝突は続き、ハマス側では約7万人が犠牲となり、その多くが婦女子だという。一方、イスラエルの戦闘員の死者は700人未満にとどまる。ロシアのウクライナ侵攻も同様に、武力による現状変更が国際法や人道を踏みにじっている現実を示した。

報復が正義と混同されるなか、AIの急速な進展も人類の存続を脅かしかねず、地球は重大な岐路に立たされている。

このような時代において、私たちが拠るべきは、人類の良心と倫理の力である。力なき者こそが、真の勇氣と道徳的権威を持ち得る。

非核国家と地球市民が連帯し、倫理に基づく新たな国際平和連合を築くことこそが、未来への唯一の道である。本稿はCOPYLOTの指導をえてその憲章を書いたものである。

私たちは今、核兵器と暴力の論理が地球の未来を脅かす現実に向き合っています。しかし、倫理を持つのは権力なき者であり、勇氣を体現するのは暴力を拒む者です。この憲章は、倫理と連帯を通じて世界秩序を再構築するために固結した非核国家と地球市民による宣言です。

人類は歴史の中で、圧政の王権や狂気の独裁国家を人民の力で打倒してきました。今、AIの誤使用による地球滅亡の危機が目前に迫る中、核保有国は依然としてデッドロックに陥っています。

この状況を打破し、核とあらゆる武器を廃棄させるためには、核を持たぬ弱小国家群が、かつての人民のように固結し、倫理的リーダーシップを発揮しなければなりません。

すべての国家の指導者は過去の他国とのしがらみを忘れ、現在今すべきことのみを

やり通すと銘ずるべきです。

第1条 兵器の完全廃絶

すべての国は、核兵器の開発・保有・使用を放棄し、核兵器禁止条約(TPNW)を支持・履行する。核兵器は人間の尊厳と地球の持続可能性に対する最大の脅威である。核兵器に続き、災害対応用を除くすべての武器の製造・保有・使用・威嚇を禁止する。軍事同盟および仮想敵国の設定は排除され、威嚇による挑発行為も禁止される。



第2条 非核国家による倫理的同盟の結成

非核国家は、倫理的価値観に基づく外交同盟を形成し、

国際問題において道徳的リーダーシップを発揮する。この同盟は、軍事力ではなく、対話・協力・共存を原則とする。

非核国民は、宗教や信念に基づく「眼には眼なき愛」の精神に立脚し、核保有国民、特にその指導者を倫理的に導かなければならない。政治に聖域はなく、すべての権力は倫理の審判を受けるべきである。EU・ASEAN・BRICSなどの既存枠組みは、核廃絶に同意する限り、この同盟の一員となり得るが、共に一体化を目指さなければならぬ。

第3条 国際機関の倫理改革

国連を含む国際機関は、権力政治ではなく倫理原則に基づく構造改革を行わなければならない。この倫理憲章、核廃絶と不戦条約は、国際連合憲章の中核原則とされるべきである。従い国連の加盟は非核国家及び本憲章を批准した国に限定する。

非核国家による同盟は、安全保障理事会の常任理事国としての地位を持ち、拒否権の見直しを含む制度改革を推進

する。非核国家の声は、制度的に権限を与えられなければならない。

第4条 主要国の歴史的責任

いち早く戦争を放棄した歴史を有する日本は、その憲法を体現し、世界と共有する責任を負う。特に、これを指導し、後に再軍備に導いた米国は、その歴史的経過を反省し、日本と共に平和理念の具体化に責任を持たなければならない。

EU、BRICSの主要国家はいち早くこの憲章を受け入れその組織を新たな国連の核となるべく指導する。

第5条 市民の声の制度化

市民の倫理的な声は、政策立案に反映されなければならない。被爆者の証言、若者が主導する平和運動、芸術と教育の力は、世界秩序を形作るために不可欠な要素である。市民の声は、国家の枠を超えて、国際的な意思決定に組み込まれるべきである。

第6条 教育と文化による平和の醸成



すべての国は、教育と文化的イニシアチブを通じて平和を育む責任を負う。非暴力革命の歴史、倫理哲学、芸術表現は、未来の世界秩序の基盤となる。平和は交渉されるものではなく、育まれるものである。

結語

私たちは、力ではなく倫理によって世界を変える。核兵器を持たない国々には、未来を語る道徳的権威がある。「右の頬」を差し出すことで相手の良心と世界の構造そのものに問いを突きつける勇気が重要である。

抑止力と他国からの国防自体が微発となる。

ただでさえ減びゆく地球の前に、すべての国防軍は地球防衛維持軍たるべきである。(了)



ライフ・クロッシング中国特集

日中関係の発展を願う特集を組みました



あまり賢明でない日中の首脳によって両国民は多大な被害を受けつつあります。当誌に関わりのある中国人の方々に、掲載予定作品を事前に読んで頂いた上で、彼らの生の意見を書いてもらいました。当局の監視下での発信ですのでその意を汲んで下さい。特集は、この下欄から7ページまで続きます。

街角の外交官

新潟県三条市語学教師
梅田 純子

何（ホー）君が、私の勤める大学へ留学生としてやってきたのは、二〇一二年のことだ。それはキャンパスの紫陽花が連日の雨に洗われて、紫の色を一段と増した頃だった。

日中関係が緊迫していることが原因で中国人留学志願者が次々と取りやめる中、彼だけは初志貫徹し、予定通りに来日した。

授業初日、アパートから大学まで三十分ほどの道のりを一人で歩いて来るといふ何君が心配で、私は普段より早めに教室へ行ったのだが、それよりも一足早く彼は到着していた。

暑さの中を長時間歩いて来たからなのか、顔は赤みを帯び、頭の前から汗がふき出て、髪がぐっしょりと濡れている。何君は私を見つけると駆け寄り、寄ってきて中国語交じりの日本語で興奮気味に話しかけてきた。

「ぼく、大学に来る途中で

迷子になって、しかも雨がだんだん強くなってきて、頭の中が真っ白になって、『どうして日本になんか来たんだらう』って、後悔して…」

私の脳裏には、異国の街角で途方に暮れている何君の姿が浮かんだ。

「大変だったね」とねぎらいの言葉をかけると、意外にも彼は嬉しそうに話を続けた。

「そうしたら、通りかかった日本人のおばさんが、『どこに行くの？』って声を掛けてくれて…先生の名刺を見せたら、その人が車で連れて来てくれたんですよ！」

「ぼくの両親は、日本人は穏やかで優しい人たちだって言っていました。本当にそうだとわかりました」彼は、赤い顔をさらに赤くして、こう締めくくった。

私は何君の話を聞いて、彼の頭が濡れていたのは、汗をかいたのではなく、雨に濡れたからなのだと気づいた。

「何君、アパートを出るとき傘を持って来なかったの？」

「いいえ、持って来ましたが、でもね、途中で雨が降り出して、僕の足を濡らしていたお年寄りが濡れていたので、

傘をあげたんです」

「えっ、自分の傘をあげちゃったの？」私はびっくりして聞き返した。

「はい」何君は、当然でしょ？ なんて驚くの？ とも言いたそうな顔つきで、まっすぐに私を見つめ返した。

先ほどまでの私は、何君をここまで連れて来てくれた日本人のさりげなくも勇気ある行動に感銘を受けていた。だがこのときの私は、自分が傘を差し出したことは至極当然と考え、それよりも見ず知らずの自分をここまで連れて来てくれた日本人の行動に感謝している、そんな何君の純粹な心にさらなる感動を覚えずにはいられなかった。

今年もまた、手まりに似た愛らしい紫陽花がキャンパスに彩を添える季節がやってきた。

それは、新たな留学生がやってくる季節であり、街角のあちこちで小さな国際交流があふれる季節でもある。

（第15回 小さな助け合いの物語賞・ハートウォーミング賞受賞）



中国を好きでも嫌いでもない自分だが 付き合わねば仕方がないではないか

東京街の駄文家 馬場 雅雄

自分は貿易の仕事で訪中回数は百回ほどあり、かなり多くの中国人知己もいる。

彼等との付き合いで実感したのは、彼等も我々と同じ顔付きのアジア人であり、漢字や仏教や文明・文化を伝えてくれた先輩であること。そして『共産党は中国の歴史で初めて国民を飢えさせなくなった』こと。さらに『広大な国土を持つ、多民族国家であり、人口は世界一、遅れた経済、低い民度における統治は困難な故に（良いとは言わないが）強権、独裁で臨むのがBESTと考えている』と理解するようになった。

中国は世界の中心、中華だという自負心と面子を重んじる国だ。然るに西欧列強だけでなくその尻馬に乗って教えずに思っていた日本までも侵略してきたのだ。面子丸つぶれだ。反発したい気持ちも理解しよう。

日本軍国主義復活反対を唱えた。

ハルビン駅に韓国のテロリスト安重根の記念館ができたのもこの年だ。翌年安倍晋三首相の靖国神社参拝が更に中国の反発を招き14年の制定・反日デモなどに繋がる。

日中国交回復の共同宣言には『中国は戦争賠償の請求を放棄』とある。中国が他のアジア国と違い戦争賠償を放棄したことに我々はもっと留意すべきである（因みに北朝鮮はまだ放棄していない）。この宣言では同時に『台湾は中国の領土という主張を尊重』すると約束している。

中国の対日政策を分析すると日本の姿勢に対応して硬軟を使い分けているのがわかる。愛国心が従属外交と扇動するから高市政権も相手の面子を立てる妥協ができない。自ら墓穴を掘っているのである。

ひるがえれば、日中関係が悪化したのは2012年尖閣列島を都有地の代わりに国有化したのが発端である。南京大虐殺の12月13日を国家追悼日として2014年に制定した。翌年軍隊などを動員して翌年以降軍隊などを動員して

どは誰でも言える。習主席を手なづける手腕を首相は持ち合わせて欲しい。野党も手をこまねいているのだろうか？

中国とはこちらが大人(たいじんの余裕)で対応しては？

外交は「三割は相手国のことを考えてやりなさい」とは、外交術として知られる名言である。中国軍機による照射は挑発だと怒る。台湾への軍事進攻には名目無くしてはできないが、トラブルをテコに解決したい、と習氏は思っているだろう。挑発に乗って侵攻の口実を与える下策だ。

日本を知る中国人の大半は間違いなく現代の日本に好意を持っている。中国の地下鉄のホームの床に《並んで待つのが文明人》と書いてあるのはまだ文明人でないのを自覚しているからだ。

私の知人やインバウンドの旅人の日本観は『街が奇麗、ごみの後片付け、マナーが良いから好感だし、見習いたい』という。中国はまだ発展途上国なのだ。政権は肩肘張っているが中国民は知っている。政治的・経済的・文化的に自

国・中国はまだ未熟だと。

今回も中国は公式には強硬路線を突っ走るが、その裏では慎重に手加減して世論操作をしているのを読まねばいけない。

中国には足を引く張る世論はない。操作して応援させるのが可能だから彼我の外交世論には注意が肝要だ。高市首相の果てしない軍備増強増税路線よりも、安上がりの民間も参加して平和外交に転換させよう。



高市首相！米国となら誰が首相でも友好関係を築ける。

トランプ氏にピョンピョン跳ねるより、習主席にゴコチナイ握手を交わすのでなく、イタリアのメローニ女性首相との如くハグをする演技ができたなら軍事費を1%減らせるのではないかと。

国家・国民の為にうまくふるまい折衝して欲しい。



中国人の二極化

中国人の女性実業家より届いたメッセージ

大阪森ノ宮 田淵豊

私自身、思わず眉をひそめてしまう光景を何度か目にしたことがあります。大阪の入国管理局で、多くの外国人が滞在許可を求めて審査の順番を待っていました。人数が多く、審査に二〜三時間かかるのは珍しくありません。そんな中、一人の中国人男性が突如、「俺の順番はいつ来るんだ！」と怒鳴り始めました。何十か国もの人々が静かに列を作っている中で、声を荒げているのは彼一人だけでした。

係員は慣れた様子で「現在は審査待ちです。もう少々お待ちください」と淡々と応じます。こうした対応に慣れているのでしよう。周囲には警備員も配置され、万一の事態に備えていました。中国本土では、大声を出せば順番が早まる文化でもあるのでしようか。

(x)の投稿を見ても、中国人

観光客の非常識な行動を報告する投稿は少なくありません。もちろん非常識な行動は中国人に限った話ではありません。しかし投稿の量を見る限り、「中国人シリーズ」とでも呼ぶようになるほど目立つのも事実です。もっとも、日本を訪れる外国人の中で中国人が最も多い以上、事例が増えるのは必然とも言えるでしょう。

一方で、まったく異なる中国人の姿もあります。先日、東京でお会いした中国人の女性実業家は、非常に聡明で日本語も堪能、人情味あふれる人物でした。中国本土で従業員1200人を抱える企業を営んでおり、日本の基準で言えば大企業の経営者です。

彼女の家族は、国の政策で、まだ彼女が幼い頃、約10年間にわたり田舎での生活を強いられました。ただ強いられたといっても、田舎での生

活で彼女自身は楽しい思い出しかないそうです。

その後、成長した彼女は政治から距離を置き、夫とともにビジネスに専念し、国際貿易ができる企業へと成長させました。「政治には興味がない」と言いながらも、中国政府の行く末や日本の政治体制については、驚くほど冷静かつ的確に語ります。

幸福祈願



このような人々ばかりであれば、中国人に対する過度な嫌悪感も生まれず、日中関係もより円滑に進むのかもしれない。しかし、我々の常識を超える行動を取る一部の中国人や、中国政府による日本への強硬な対応——渡航制限、水産物輸入禁止、レーダー照射事件、国連での対日批判——を目にすれば、中国に嫌悪

感を抱く日本人が増えるのも無理はないでしょう。

では、非常識な中国人と、聡明な中国人の差はどこから生まれるのでしょうか。もちろん、日本人にも傲慢で鼻持ちならない人物は少なくありません。しかし私の聞ききする限り、中国人は極端に振れ幅が大きいように感じます。

上海に駐在する友人に、私が海外の入国審査で見た二つの光景を話すと次のように答えました。「中国では、多くの人が反日感情を煽る映像を見せられて育つんだ。聡明な人はそれが『政府のプロパガンダである』ことを理解している。しかしそうでない人が海外へ出ると我々には理解しがたい行動に出るんだ」

この構造こそが、中国人の「二極化」を生み出しているのかもしれない。個々人を見ることなく、国籍だけで判断するのは危険です。しかし同時に、社会構造や教育環境が人の振る舞いに大きな影響を与えることも、我々は直視すべきなのでしょう。

こんなエッセイをさきの中

国人女性実業家に送ったところ、次のようなメッセージが届きました。フォントを変えてお伝えします。

中国は人口が非常に多く、教育の機会や内容には地域や世代によってばらつきがあります。そのため、外国人から見るとマナーが悪く見えてしまう行為が、確かに存在します。私たち自身も、その点については非常に気にかけています。

これは発展の過程にある問題であり、私たちの次、あるいは次の次の世代が社会の中心になる頃には、きっと今よりもずっと良くなるだろうと信じています。時間としては、おそらく五十年から百年ほどかかるでしょう。

やはり人間というのは、まず物質的に豊かになり、その後、ある程度の時間を経てから精神的な豊かさという殿堂が築かれていくものだと思います。私は、その未来をとても期待しています。



二人の中国人に訊く

日中がともに目指すべき方向

二人とも当局に忍んで寄稿して頂きました。謝！謝！

(Aさん 在中国、中国人)

昨日1月7日、中国は再び「全ての両用物項の日本に対する軍事目的向け輸出を禁止する」措置を発表した。この禁止対象は約千種類に上ると見込まれ、統計によると中国から日本への輸出品目の半数を占めるといふ。これは、高市首相が「台湾有事は日本有事」という発言を撤回しないためである。このことから、中国は「敵を千人討ち取っても、自らも千人の損害を被る」という覚悟でも、日本に譲歩と謝罪を迫ろうとしていることがうかがえる。

台湾の地位については、日中国交正常化の時代に、日本政府は「台湾は中国の一部であることを尊重する」と約束している。両国関係が緊迫している現在、中国を刺激する必要はまったくくない。高市首

相がこのような発言をしたのは、国民に「我は中国を恐れない」という印象を与えるために過ぎない。しかし、その結果として多大な経済的利益を失っているのではないか。これは得をしたよりも損をした、と言わざるを得ない。

政治家としては、国民の福祉を高めることが第一の要務である。面目をかけて口論をすることは、双方が損害を被る結果にしかならない。日中両国は一衣帯水の隣国であり、引越すことのできない隣人同士である。関係が険悪になることは、双方にとって不利である。両国は相互依存し、互いに頼りあっており、言わなければどちらもどちらも離れられない関係にある。

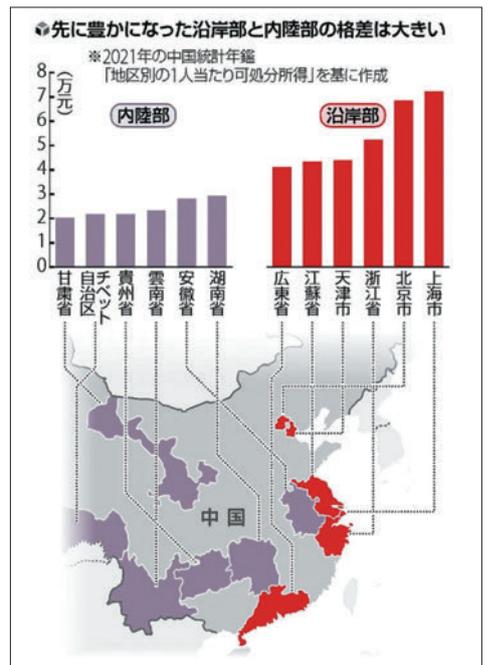
また、中国は改革開放以降、経済が急速に発展し、国力も次第に強化されてきた。短期間で総合的な国力は日本をはるかに上回り、現在では両国が対立しても互角の勢いで、どちらも相手を完全に打

ち負かすことはできない。そのような状況で対立を続けると、世界中の日中両国を嫌う国々に嘲笑され、見物されるだけである。それは何の意味があるだろうか。

日本は中国の基礎物資、資源、市場に依存しており、中国は日本の高精密な技術や設備を必要としている。このような相互依存関係が一旦損なわれ、双方が破綻子破砕（損害が生じたものをそのまま放置して、さらに悪化させる）の態度をとれば、両国の経済発展は深刻に阻害されるだろう。このことは、両国の指導者たちもよく承知しているはずである。

やはり鄧小平時代の考え方は賢明だった。紛争のある問題については、「次の世代に解決させる」という方針だった。

改革開放初期に始まった日中友好関係が懐かしい。日本が援助して建設された鉄道、空港、港湾、橋梁、鉄鋼、電力、環境対策。我々は日本に感謝している。日本の援助は中国の国力向上に大きく貢献した。心から両国が再び争いを起こさないよう願っている。



(Bさん 日本留学経験および日本職務経験者)

戦争中の国を見ればわかります。何一つメリットがありません。

30年かけて中国はアメリカや日本等発展国の力を借りて経済を発展して参りました。とりあえず他のことを置いて、ひとまず経済だけを発展させることしか考えませんでした。各代首脳が各時期において各自の目標が違いますが、現在は台湾問題みたいな敏感問題を触れると国間の緊張感が増え、戦争に近い雰囲気になってしまいました。

どこの国の国民にとっても、平和は何よりも重要です。せっかくなので平和時代を是非続けてほしいです。平和な時代だから、国民が豊かに暮らしてできます。戦争は残酷です。

地球を離れて遠くから地球を見れば、地球は小さくて、国と国の境目なんか全く見えません。そんなときには土地を奪ったりする事は全く意味のないことしか思えません。政府としての務めは国民の幸せを守ることです。戦争や不幸を望む国民はいませんか？

日中友好を今後も続けてほしいです。日本と中国は切っても切れない密接の関係で、敏感問題を避けて、経済や交流をもっと考えて頂き、お互いに特に民間企業を守ってほしいです。政治の影響で企業はいつも不利の立場となってしまう。

中国も米国も日本も華やか画像が多く出回りが各国共にまだまだ貧しく生活は苦しい。

Aさん経営者：日中関係というテーマは、政治的な敏感性を伴うため、執筆が極めて難しい。中国の法律に抵触することを恐れ、要点だけを触れるにとどめることにする。

Bさん専門職：中国に一時帰国中で、敏感な発言はできませんのでこのくらいにさせていただきます。(2人とも日本語堪能、どちらも原文のままです)



寂しい一時出張

冷たい空気を感じる時

青島市 技術者 劉伯宣（仮名）

昨年12月初め、日本の高市首相による発言をきっかけに、日中関係は一気に冷え込んだように感じました。それに伴い、中国政府も水面下で様々な政策や行動を取り始め、日本人のみならず、中国人自身にとっても理解しがたい動きが続いています。その結果、これまで蓄積されてきた不満や意見が、メディアやSNSを通じて一気に表面化し、両国の国民感情の溝がさらに深まったように思います。

先月、私用で約10か月ぶりに日本へ出張しました。三社合同便にもかかわらず、機内の乗客は全体の3分の1ほどでした。関西空港に到着後、荷物を受け取るまでに40分ほどかかりましたが、その静けさに、心のどこかで重苦しい寒さを感じました。翌日、取引先を訪問した際も、話題の多くは日中情勢に関するものでした。以前にも日中関係が悪化した時期はありましたが、ここまで重い表情で語る

地下鉄や新幹線でも、中国人乗客は明らかに少なくなり、以前よりも静かになったと感じました。居酒屋やコンビニで中国人留学生のアルバイトを見かけることもほとんどなくなり、半日ほどデパートで買い物をした際には、パスポートを提示した瞬間に、言葉遣いは変わらないものの、店員の態度がやや冷たくなったと感じる場面もありました。



毎回出張の際に通る同じ場所で今回は違和感を感じました

街の至る所で中国語の注意書きを目にしながら、「なぜ

ここまで変わってしまったのだろう」と、首を振りつつ心の中で嘆くことしかできませんでした。

近年、インバウンドの増加により、文化や生活習慣の違いによる摩擦が目立つようになりまし。戦後の日本は経済成長とともに、科学や文化も先進国の水準に達し、社会福祉や教育の面でも、少なくとも他のアジア諸国から見れば、夢を追う国として映ってきたと思います。一方、中国はWTO加盟以降、急速な経済成長を遂げましたが、その成長に社会文化や教育の成熟が十分に伴わず、政治体制の影響もあり、人々の素養やマナーの面では先進国との差が残っているのが現実です。

この数年、コロナ禍の影響や不動産バブルの崩壊により中国経済は迷走し、中間層や富裕層の一部はその現実に気づき、海外へ目を向け始めました。円安の影響で日本を訪れる中国人観光客が増えた一方、その中にはマナーや社会意識の違いから、日本人にとって理解しがたい行動が目立ったことも否定できません。物価上昇に賃金が追いつ

かない中で、日本人自身の生活が苦しくなっていることも、外国人に対する感情を厳しくしている要因の一つではないかと感じます。

とはいえ、ここ20〜30年にわたるグローバル化の中で、日中両国は文化や経済の面で深く結びつき、互いに影響し合ってきました。日中両国は、もはや簡単に切り離せる関係ではなく、互いに深く結びついた存在になっているように感じます。それは友人であったり、恋人であったり、あるいは夫婦のような関係にも例えられるかもしれません。そのような現実の中で、「国籍」という一つの線引きだけで、すべてを割り切ることが本当に可能なのでしょうか。

現在の日本には、確かに有効な改革が必要だと思えます。これまでの政策の延長線上だけでは、かつての日本の姿に戻ることは難しいでしょう。しかし、現段階から急激に方向転換を行えば、大きな改善が必ず得られるとは、私には思えません。外国人に対する政策が一気に厳しくなり、これまで緩んでいたひもを急に強く縛れば、切れてし

まう部分も出てくるはずですが。その過程で、真面目に生活し、誠実に働いてきた人々が犠牲になる可能性も少なくないのではないのでしょうか。

政策について論じる立場ではありませんが、日本がより豊かな国を目指すと同時に、外国人に対しても、もう少し寛容なまなざしが向けられる社会であってほしいと願っています。最後に、「日本と中国は今後うまくやっていけるのか」という問いについてですが、問題がこれほど顕在化している現状では、どちらから歩み寄りが見られない限り、容易ではないと思います。今はただ、互いの善意にわずかな期待を寄せるしかないのかもしれないと。



「私は台湾人です」のバッジを見かけた。中国人なら嫌な目に遭うから？（著者撮影）

昼は医者稼業、 夜休日は反逆老人、 時にはがん患者(後)

世なおし埼玉県の会
神縄の闘いに連帯する関東の会

埼玉協同病院消化器科医師 辻 忠男



前号のダイジェスト「医者の不養生」でまさか自分が痛にかかっているとは思わず、息子から「診てもらった方がいい」と諭され、仲間の医者からは「直腸がんですね」と断定された話の続きです。

「がん患者体験の一部―「悪夢」のICU症候群」

術後はいたって良好で痛みもなく、食事もしハビリも順調で来週は退院かと思えた4日目、棟内歩行訓練中に突然左下腹部に激痛が走った。「あ、これは腸管穿孔だ」と悟り、そのまま看護師に担がれてベットに倒れこむ。「緊急事態だ、主治医を呼べ！」とあたりかまわず喚びた。結局同夜緊急開腹再手術、一回目手術した直腸部の吻合不全で腸管内容が腹腔内に漏れてしまい腹膜炎を呈していた。朝方までの手術で人口肛門増

設と相成った。その後は気管挿管・人工呼吸器のままICUに入室、天井をにらんだまま2週間滞在する羽目になった。その間の腹痛たるや激烈で24時間痛み止め漬け、あのトランプが嫌った強力鎮痛剤「フエンタニル」も総動員で、修羅場を乗り越えることとなる。「腹が痛い何とかしてくれ！何とかして！」と恥も外聞もなく叫びまくる。そんなある夜突然幻覚が出現した。天井や壁の隙間から仁王のようなモンスターがニューツと次々にこちらに迫ってくる、ホラー映画そのものである。引っ込んだと思うと又新たな恐ろしい形相の鬼が迫ってくる！「ムム、そうか、これが例のICU症候群か！」と必死で耐える。またあるときは空中にアジビラのような文章を書いた半透明な巻物が、手で払っても払っても浮遊し続け

る。良く読めないがどうも私を糾弾している文面のようなものがある!? 若かりし頃全くの濡れ衣で、ある党派にこづきまわされた記憶が蘇る。

当時足しげくICUの私を見舞ってくれた友人は、毎日病態が悪化する様を見て、悪運強いこの人間もこれで終わりか、と思ったと後日語った。しかし当の本人は痛みと幻覚と闘うのに精いっぱい、「死」など露にも頭になかった、いや正確には思う暇が無かった。多分この痛み・苦しみに抵抗する闘いが終了した時点で、あちらの世界の入り口で、生から解放される時なのだろう。そう考えると苦しみも悲しみも、まさに生きていく証である…



「殴らないで。降参、勸弁して」

入院中は、今日一日をどう受動的に生き抜くかが大問題である。24時間がとてつもなく長い。テレビを見る気力は無し。ラジオから聞こえる伊

集院光の声や、眠れぬ夜のNHK・FM深夜便放送に癒されるのが何日も続いた。耳に聞こえる穏やかな人の声、喋りには心を落ち着かせる力がある。

入院が長くなると病院食が鼻について全く進まない。しかし不思議に麺類だと難なく飲み込めた。食べることで大切さ・おいしく食べることで有難さが身に浸み込んだ。

いよいよ入院も2か月半の長期となり、一日でも早く自分の布団で寝たい、手作りの食事が食べたいとの欲求が抑えきれなくなり、主治医に無理言って半月早めに退院させてもらった。

退院後の年末年始には、食べると激しい腹痛を生じ、体重はさらに減少し足の筋肉は糸こんにゃく状、歩くのもやっと、へろへろの状態となった。しかし無為に家でゴロゴロしていても埒が明かないと思ひ切り、2月から仕事に復帰した。当初は病棟を回診するのもやっと、まさに青息吐息の状態であった。我ながらよくぞこの時期を乗り切ったと感心、若い時に体を

鍛えておくことの重要さを改めて知った。

5月の連休中には人工肛門閉鎖術を受け、自分の肛門から便が出ることとなった。体重も程よい具合に回復した。しかし今も排便はママならぬ、診察中に急に便意を催すこともある。

緊急手術を受ける羽目になったことをどう思っているかって。やはり私の肛門部の条件が悪かったのである。しかし、もし死んだり大きな障害が残ったら、多分こんなことは言ってもらえないだろうな、医療者の皆さんには大感謝しているが。

術後10か月目の現在90%エナジー回復、気力もますます、今後もゆっくりじゅじゅり、昼の医者稼業と夜・休日の反逆老人を続けていく所存です。(了)

(編集部注) 表題の「夜休日は反逆老人」に関して、今回誌面の都合上(文字数に制限があるため)先生の反逆老人ぶりをお伝えできませんでしたが、いずれ改めて機会を設け、先生にご執筆をお願いすることに致します。

小川淳也新党首は期待できる

東京 台東区 三田 栄考

2月13日1時間半にも及ぶ記者会見をノーカットで凝視した。

これまで幾度か近くで、TVで氏の演説などを聞いていた。政治家たる者、ましてや党首は小泉や、田中のように気迫が無ければいけないと思っている。小川党首は気迫は感じる。が、玉木の訴求力、神谷の如き平易な話術、山本の演出力に負けるが、政治の本質を語る見識、その誠実さ、真正面から難問に向き合う姿勢は確かに光っている。いつも肩に力が入っているのがちょっと心配だが。

これほどの難問山積の党首がかつていただろうか。記者が次から次に答え難い質問の矢を放つのを、言葉を選びながらゆっくりとハッキリした口調で答えていた。これまで対峙していた両党の政策の融和を考えながら、従前の立憲・リベラルの活動にも配慮して答えなければならぬ。旧立憲の票すら獲得できな

かったのを中道の塊を大きくして政権に迫るにはどうするか？参議院・地方議員もまともないと中道党の結党の意味がない。いや、分党から解党に向かう危険すらある。社民党ゼロ、れいわが壊滅状態の上に山本代表を失う、共産も半減して最早回復の可能性少ない。こんな政治状況は野党を支持し、世の進歩を願う1000万〜1500万の国民が危機感を共通できれば、小川党首が個性をうまく發揮できれば克服できると感じられる会見だった。

多くの政治家がその場しのぎで逃げて来た課題を提起していた。毎年100万人の人口減少に伴う深刻な諸問題（保険料等）。社会保険料を払えない企業が非正規雇用に走、低賃金構造に由来する。新党首は日本の構造課題に正面から向き合おうと強調された。自民党は表面的にしか対応してこなかったのが日本の悲劇だ。リベラル勢力のある

べき社会像を国民に示してその選択と政権選択を問うてもらいたいと思った。野党第1党でしかできない国の社会のあるべき姿を示せば国会と政治の世界が変わると期待したい。

これまでの野党は政権党の土俵で後追いばかり続けてきた。現在の政策論議では政権党に負けるし、こちらの政策を横取りして実行できるのは自民党側であるから。自ら未来を語る。理想を語るこちらの土俵で政権党に議論を挑むべきだ。

新党首は「減税政策は税金を多く払っている金持ちに有利に傾く。給付は貧しき者により多く支給される」と説明された。「給付付き減税」は永年の立憲の主張であって施行に月数がかかるようだがその公平な視点もようやく自民党も学者も耳を傾けつつあるように思う。

「組織とはトップとその他大勢」しかないとの小川氏の現実の理論を否定はしない。が、本来民主主義は一人のリーダーの意見がほぼ全てを決められるのはあるべき姿とは思わない。自民党はダメだ

と石破首相でかなり負けたのが高市首相に変わっただけで大勝利するのは極めておかしい。あるべき姿ではない。自民党という党の体質も、国民の自民党感も一挙に変わるはずはないし変わるべきではない。

そんなにリーダー1人の弁舌でひっくり変えるのはヒトラーが現れたら付いて行く羽目になる。一人一人の自己が確立された国民、世界人であってもらいたいと私は願う。

エネルギーの9割、食料の7割を外国に頼っているわが国はそれに応じた核政策でなければいけない。非核三原則などは堅持すべきである。人を雇用する経営者もそこで働

く人も明るく活き活きした会社・社会であって欲しいと新党首は熱弁をふるった。重箱の隅を突くな、他党を攻撃するなどは、保守党を助ける助け舟に過ぎない。自民党を批判すべき点は勇気をもってすべきだ。

高人氣の高市政権に正しく批判する勇気に欠けていたのではないか。まして野田・斎藤の昔の名前的の共同党首が中途半端な中道なる党名では、今風の参政やみらいにどうぞと言っているようなものだった。小川党首の基に数年かけて再建し、政権交代を果してもらいたい。



小川淳也：高松市生まれ。54歳、東大法学部卒、自治省（初任地沖縄）入省、ロンドン、金融庁、春日井市等に出向、2003年香川県で国政に挑戦も落選、その後8選、立憲民主党幹事長、政調会長、現中道党代表、妻と娘2人。映画「なぜ君は総理大臣になれないのか」の主役

真冬の総選挙と厳しい船出 比例ブロック最後の1議席で奇跡の当選

衆議院議員 菊田 真紀子



2月8日、結果は完敗だった。高市旋風に負けた。

それなりの手ごたえを感じていたにもかかわらず、小選挙区では当選できなかった。

しかし、日付が変わった深夜1時30分、比例北信越ブロック最後の1議席で、私は当選を果たすことができた。奇跡だった。

私の当選を信じてやまない仲間が、誰一人帰ることなく事務所に残り、最後の最後まで見守ってくれた。その姿を思い出した際に、今も胸が熱くなる。心から嬉しかったし、誇らしかった。

新年早々、解散報道が流れ、真冬のこの時期に解散など、雪国では考えられない。大雪、除雪、路面凍結、移動の危険。日常生活さえまなぬ雪国の現実を、高市総理は理解していないのではないか。あまりに自己都合ではないかと、強い憤りを覚えた。



そうした中、1月13日、立憲民主党の執行役員会で、野田代表から「公明党と新党を立ち上げる」との発言があった。これまで自公政権と厳しく対峙してきた立場として、戸惑いやためらいがなかったと言えは嘘になる。しかし、右へ右へと傾く高市政権に対し、対立と分断ではなく、中道の旗を掲げ、大きな塊をつくる必要がある。野田代表の決断に、多くの立憲の議員が賛同し、私も新党から出馬する決断をした。

1990年以来、36年ぶりとなる真冬の総選挙は、想像していた以上に過酷で、危険と隣り合わせだった。



本来であれば、1日に30回、40回と街頭に立ち、演説を繰り返す私らしい「ゲリラ選挙」を行う。しかし、今回はそれが全くなかった。新党「中道改革連合」の名前や理念を十分に浸透させる時間がなく、野田代表、斉藤代表の2人が並ぶ姿に新鮮味がないとの声も聞こえた。

一方で、自民党候補は、朝ポストを貼るにも掲示板は雪に埋まり、まずはスコップを手に除雪から始めなければならぬ。街頭演説では、スタッフが2時間前から雪かきをして、車を停める場所を確保する。この寒さの中、外出している人はほとんどいない。吹雪で車道が見えなくなると、怖くて運転できないという声も多く、夜の集会は断念せざるを得なかった。

業・団体を動員し、徹底した組織選挙を展開していた。選挙期間中に掲示できるポスターの枚数は法律で厳格に定められているにもかかわらず、証紙の貼られていない違反ポスターが選挙区内に数多く掲示され続けていた。法律を守るべき政権与党が、ルールを軽視していることに、強い憤りを覚えた。

私の陣営は、雪に埋もれながらも、真面目にポスターの貼り替え作業を行っていた。正直者が報われない選挙であってはならないと、悔しくて仕方がなかった。

選挙結果は、立憲の同志144人のうち123人が落選し、21人しか残れず、まさに焼け野原となった。復活当選を果たした喜びも束の間、この先に待っているのは茨の道だ。「中道改革連合」は、選挙目当てでつくられたのではないかと有権者に見られ、足元の支持基盤が崩れた。

これをどうやって立て直すか。18日から始まる国会では、自民党が3分の2を占めるなか、いかに野党第一党として存在感を示せるか。憲法と平和を守るため、数の力で



比例北信越ブロック最後の1議席で奇跡の当選を喜ぶ支援者らと

菊田真紀子プロフィール：新潟2区連続当選9回、立憲民主党常任幹事会議長、次の内閣で元文部科学大臣、24年自民党系候補にダブルスコア、21年、前三条市長に勝利（開票日に外交官の夫飯田慎一氏急逝）17年、現評論家金子恵美に勝利、03年民主党公認で初当選、95年加茂市議選に全国最年少25歳でトップ当選2期。

「手取りをもっと増やす」の

国民民主党から出馬しました

衆議院議員 東京4区(大田区の大井)

井戸 まさえ



兵庫県議会に芦屋区選挙区から初挑戦した2003年以来、民主党系の政党にて地方選挙、国政選挙を戦ってきた。途中、当時所属していた党の選挙戦略による選挙区替え等もあり、現在は国民民主党に所属、公認候補として東京4区(大田区の大井)で第51回衆議院選挙に2回目の挑戦をおこないました。今回の衆議院選挙は、私にとつて改めて政治の原点と、自らの使命を深く問い直す選挙となりました。

選挙戦全体を振り返ると、「高市旋風」と呼ばれる大きな政治の風が吹き荒れました。自民党に対する強い追い風が全国的に広がり、東京4区においても、強固な地盤を持つ現職候補との戦いは、極めて厳しいものとなりました。政策論争だけではなく、時代の空気そのものが選挙結果に大きく影響する現実を、改めて突きつけられた思いです。

そのような厳しい情勢の中で、小選挙区での勝利には至りませんでした。しかしながら、比例代表において多くの皆様のご支持をいただき、比例復活という形で衆議院に議席をお預かりすることとなりました。13年2ヶ月ぶりの国政復帰です。これは、決して一人の力ではなく、これまで最も辛かった落選時代を支えてくださった後援者の皆さま、日々の街頭で声をかけてくださった方々、そして今回新たに出会い期待を寄せてくださった有権者の皆様のおかげと心から感謝申し上げます。



私はこれまで、「弱い立場にある人の味方でありたい」という信念を胸に政治活動を

続けてきました。子育てや介護、障害児福祉、年金制度への不安など、現場で耳にする声はどれも切実です。制度の隙間に残り残されている方々がいる現実を直視し、古い制度を見直し、誰もが安心して暮らせる社会保障をつくる。その決意は、この選挙を通じて一層強くなりました。

毎朝の街頭演説では、「政治は変わっていない」「生活は苦しくなるばかりだ」という厳しい声もいただきました。その一つひとつが、政治への不信であると同時に、「変えてほしい」という願いでもあります。私はその声から逃げることなく、正面から向き合い続けてきました。今回の選挙では、行政の効率化、マイナンバーの活用、

現役世代の負担を軽減しながら持続可能な年金制度を構築する必要性、そして物価高に苦しむ生活者への具体的な支援策など、現実に根ざした政策を訴えてまいりました。

また、選挙を通じて、公職選挙法や選挙制度そのものの課題も強く感じました。情報発信のあり方、資金力や組織

力の差が結果に影響する現実など、より公正で開かれた選挙制度への改革が必要であると痛感しています。比例復活という形で議席をいただいた



この意味は、極めて重いものです。小選挙区で届かなかった声と、比例で託された期待の両方を背負い、結果で応えていかなければなりません。この議席は、私個人のものではなく、支えてくださったすべての方々のものです。

政治は、誰かのためだけにあるものではなく、すべての人の生活を支えるためにあります。だからこそ私は、これからも現場に足を運び、声を聞き続けます。そして、声なき声に光を当てる政治を、あきらめることなく追求していきます。今回の選挙でいただいたすべてのご縁に、心から

感謝申し上げます。同時に、長く選挙を戦ってきた一人として強く感じるのは、落選した候補者への支援の在り方です。私自身、落選の中で活動の継続に苦しみながらも、多くの方に支えられて今日があります。

しかし現実には、志を持ちながらも資金や基盤の問題で政治の場を離れざるを得ない人も少なくありません。民主主義を支える人材を守るためにも、各政党が敗れた候補者に対して、再挑戦の機会や政策活動を継続できる仕組みを整えることが必要ではないかと考えています。



2028総選挙の大敗北の深層

立憲民主党 参議院議員

小西 ひろゆき



2月8日の総選挙は、落選した多数の立憲民主党の同志のことを思うと形容する言葉が見当たらない、まさに惨劇であった。この「2026年体制」の下の、憲法改悪、スパイ防止法、非核三原則破棄などの「国論を二分する課題」の戦慄の危機を阻止すべく、全力を尽くす決意である。

本稿では、中道改革連合の結成の大義や選挙戦のあり方とは別に、今後の野党第一党の再生のために、この度の大敗北の「失敗の本質」の一端を記しておきたい。

私が思うに、昨年10月の高市政権発足から12月の臨時会閉会までの間に、立憲の党運営において致命的な失敗があった。

私は、党の厚生労働部門長として、党代表や衆院国対責任者も出席する次の内閣の場で以下の提案を二度行っていた。

① 維新の遠藤国対委員長が、自民・維新の連立合意政策を担務とする総理補佐官を務めていることが憲法の議院内閣制に反することから、高市総理の衆参本会議の所信演説や予算委員会出席を利用して、いずれからの職を辞させること。

（憲法66条3項「内閣は、行政権の行使について、国会に対し連帯して責任を負ふ。」の趣旨は「国会が内閣への民主的統制を行うこと」であり、その統制の陣頭指揮を執る国対委員長が、統制の監視監督を受ける立場の総理の補佐官を務めることは憲法の趣旨に反する）

② 高市総理の「責任ある積極財政」は国内外のマーケットからバラマキと見限られており、政権発足直後から円安と長期金利の上昇が進行しており、年末年始までには更に物価高騰に拍車がかかること

から、「高市インフレ」という用語で物価高騰の失敗を追及すること。

しかし、これらの提案は執行部によって実行されることはなかった。少なくとも予算委員長は枝野議員が務めていたのだからその職権行使によって、遠藤氏のどちらかのポストを辞めさせることは出来たはずである。遠藤氏は自維政権の要石とされる人物であり、高市政権発足直後に大打撃を与えることが出来たであろう。

また、現に、この度の解散総選挙は物価問題が最大の争点になったのであり、「高市インフレから国民を守る」というスローガンを戦略的に唱え続けることは、高市総理の解散権行使を牽制し、選挙戦においても中核の政策論として対抗できたはずである。

そもそも、高市総理は、2015年の総務大臣当時に安倍総理と共謀して放送法4条の「政治的公平」の解釈を改変し、総務大臣による放送番組の違法認定と電波停止を可能にする答弁を行うという、

違憲・違法の暴挙に及んでいく。そして、2023年に良心ある総務官僚が私に託した当時の経緯を記した行政文書に基づき追及された際には、「官僚が悪意を持ってねつ造した」と当時の部下達に罪をなすり付け、「ねつ造でなければ大臣と議員を辞職する」と言い放ちながら、官僚全員がねつ造などしていないと国会へ証言しても居座り続けた。

この問題も、政権発足直後から、党を挙げて追及すべきものであったが、殆ど行われず、岡田克也議員の質疑における台湾海峡有事を巡る「どう考えても存立危機事態になり得る」発言の追及に対しては、ネットの炎上を恐れた執行部からストップがかかる有様だった。

このように、党執行部が高市総理に対して及び腰一辺倒になっている間に、高市総理はネットの中でますますその人気を増強し、高い支持率とともに強大なネット拡散力を蓄えるに至っていたのである。このネット界のモンスター現象を見誤っていたことが、立

憲執行部の新党結成が大敗に至った最大の原因であると考える。

立憲の参議院議員と自治体議員が中道に結集するかは現時点では定まっていない。衆院予算審議の4月上旬までに、中道が「実務の力」に基づく戦略的な政策提案や失政追及を実施し支持率を上げられるか否かが新党の命運を決するとの覚悟で、その支援に全力を努める所存である。



選挙の最終盤、豊島区の鈴木ようすけ氏の応援に両共同代表も街宣車上で訴えた。両整備を行うほどの支援者が集まるも…



高山さとし氏～江東区豊洲にて安野貴博氏と共に2025年チームみらい(11名当選)を立ち上げた。東京ブロック比例区当選

小西ひろゆきプロフィール～1972年。徳島県出身で東京大学教養学部卒、米コロンビア大学大学院修了。総務省・経産省で官僚を務めた後、2010年に参議院議員（千葉選挙区）に初当選し、現在3期目。立憲民主党所属で、外交防衛委員会筆頭理事や憲法審査会委員などを歴任。医療・福祉や安全保障など幅広い政策分野に関与している。

核シェルター

敢えて警鐘を鳴らすために

金物関連業 外山産業(株) 外山晴一

私は新潟県三条市で金物関連用品の卸販売をしている外山産業株式会社の会長です。昨年の九月に会社の正面玄関前の駐車場に核シェルターを設置、展示しました。その経緯と意図を説明します。

本誌の二〇二五年春号にも書きましたが、私は原発には反対です。理由は、原発は危険だからです。地震大国の日本には向きません。また、原発はウクライナ戦争では軍事上の標的にされました。原発は危険の上ありません。

二〇一一年三月の東日本大震災での福島原発事故を受け、日本政府は脱原発を政策に掲げ、原発依存を低減すると表明してきました。しかし、岸田内閣のときから政府は原発復権に政策を変更しました。理由はAI産業の発展による電気需要の高まり、脱炭素社会の要求、ウクライナ戦争によるエネルギー危機などです。

この政府の方針転換を受けて、福島原発事故から十五年間も止まっていた新潟県の柏崎刈羽原子力発電所も県民の反対にもかかわらず、再稼働することになりました。

この発電所で作られる電気は全て首都圏に送られます。首都圏はイルミネーションで飾られ、首都圏の会社は安い電気を使って儲かります。対するに、新潟県には深刻なリスクだけが残ります。政府は避難道路を造ると言っていますが、事故のときは全員が同時に逃げるため、全員が逃げられないのは子供でも分かっています。逃げられた人も、待つ

ているのは地獄の避難生活です。急に人がいなくなるわけですから、新潟県の会社のほとんどが潰れます。

今年も新潟県も雪が多く、柏崎では民家が倒壊し、国道も通行止めでした。今年の一月に柏崎刈羽原発を再稼働すべく、スイッチを入れましたが、原因不明のトラブルのため、稼働できずに長い間止まったままです。十五年間も動かさなかったのでポンコツになったのだろうと県民は大雪の中で、心配が積もるばかりです。原発から出て来る核廃棄物の処理方法は未だ決まっていません。柏崎刈羽原発でも、発電所内に置いたままです。保管スペースの八割がすでに使われています。

原発を動かそうとする人は典型的な「今だけ、金だけ、自分だけ」の利己的で強欲な人たちです。首都圏にいる自分たちだけが、今、儲かれば良い。他人（新潟県民）や将来（核廃棄物の処理）のことなど全く考えない人たちです。

私はこのような我



利我利亡者の原発推進者に対する抗議と皮肉、県民に対する警鐘として、会社の駐車場に核シェルターを据え置き展示することにしました。

核シェルターは日本人には馴染みのない言葉であり、施設の資料によると国民総人口当たりの核シェルター普及率は、日本はわずか〇・〇二%です。それに対し韓国では総人口の三倍以上の三三・一%、スイス、イスラエルは一〇%、アメリカ八二%、ロシア七八%、イギリス六七%、シンガポール五四%です。

当社で展示してある核シェルターの説明をします。大きさは六畳くらいの部屋です。大人三人用です。鉄製で、タンクを作る製缶プラント技術で作られています。ハッチ（扉）を閉めると水も入りません。外界とは電線と放射

能を吸収してブロックする換気扇で繋がっています。この換気扇はサリンなどの化学兵器や生物兵器もブロックします。食料、水は一週間分ストックしてあります。二週間経過すれば、放射能が大分収まり外に出られとの判断です。トイレは災害用のポータブルトイレです。当然ですが、原爆の直撃を受ければこのシェルターは破壊され、機能しません。

普段はカラオケルームや麻雀室、書斎などとして、日常も使ってもらっていた方が、いざというとき使い易いです。また、核シェルターは強盗、暴動、災害などの緊急事態では身を守るためのパニックルームとしても使えます。このような核シェルターが関心を持たれて、売れそうな世の中を憂いますが、皆さんも、是非、お越しになってご覧ください。価格は一四〇〇万円です。

お問い合わせ

外山産業(株)

〒955-0852 新潟県三条市

南四日町4丁目1-9

電話番号

0256-1321-6041

日本の近・現代文芸界の巨人

菊池寛

大阪 中央区 原野 通有

学生時代に《父帰る》《直卿行状記》を読んだ記憶がある。菊池に関してまだ知らない知識しか持ち合わせていなかった。門井慶喜の《文豪、社長になる》(文春文庫)で詳しく彼の生涯を知った。我が国の近・現代文芸界の恩人の働きを紹介したい。

何となく私は菊池寛は純文学かなと感じていたので、ネットで調べたら、大衆文学的手法を用いながら、純文学界にも強い影響を与えた作家——とあって合点した。文藝春秋——1923年総合文芸雑誌文藝春秋を創刊、社長編集者、プロデューサーとある。

芥川・直木賞——1935年新人作家の育成を目的に文春社が創設。昨上期の173回は両賞の該当作なし。下期は今年の1月発表。文春砲(効果は甚大)——菅首相辞任、長男の総務省幹部接待で。甘利経再相辞任、大臣室

で現金授受で。

芸術家と言えば、楽あり苦あり、自死あり、不倫ありの波乱の世界であるが、菊池寛ほど波乱万丈、多方面に活躍した作家はいないのでないか。讃岐の松平藩の没落した儒学者の家柄で7人兄弟の四男だが学費免除等で前半生は貧乏で苦学する。



高松中学校を主席で卒業後、東京高等師範学校や明治大学法科に進学し、明治大学在学中には養子縁組による経済的支援も受けている。その後、第一高等学校に入学し、同期生である芥川龍之介との親交を深めたが、のちに退学。京都帝国大学文学部へ進むなど、入退学を繰り返した

末に卒業し上京した。

漱石の木曜会に出席、時事新報社会部記者となるが25円給料の中10円を実家に送る。生活のために郷里の資産家旧藩士奥村包子(かねこ)と結婚、生涯を共にする。

出世作は大正7年《無名作家の日記》や《恩讐の彼方》である。9年に大衆小説《真珠夫人》が大評判となり一躍人気作家となる。これからは彼の多方面の才能が開花。自宅を事務所に移転し、社を12年に創業し、本文28頁3千部の創刊号を発行した。芥川、川端、横光、志賀らが寄稿し3日で売り切れたという。借家の事務所から戦前には日比谷の大ビル内に移転した。そこでは実業家として横領事件や猟銃事件をも体験している。爾来100年の歴史をもつ出版社だが社是や明文化された企業理念はあえて持たないとか。

京都の学生時代から親交のあった芥川は『新思潮』を共にしたり、後年葬儀で弔辞を読んでいる。またゴシップ記事で部数売上に寄与した直木三十五のために大正10年に《芥川賞・直木賞》が菊池寛



直木三十五の石碑～大阪市中中央区内安堂寺町石段に設置

の手で設立された。日本文藝家協会設立、文化学院文学部長、社会民衆党(稳健派社会主義)公認の東京市会議員など。

戦後はGHQから公職追放された。文春が侵略戦争に指導的立場を取ったという理由である。協会長として自身を含めペン部隊として多くの作家に従軍させたからだろう。昭和23年3月6日狭心症で雑司ヶ谷の自宅で急逝。

月刊誌が今の国家・知識人の論壇としての地位を確立したのは昭和24年の「私はこうして死んだ」特集が大当たりした。戦争責任・敗戦体験を当事者が語る企画だった。

また、賞は例の石原慎太郎の「太陽の季節」受賞以降、大江らがそれにつづいたから新進作家の登竜門となったのが1980年代である。

他方週刊誌が権力の監視、調査報道として販売数を稼ぎ

出したのが2000年以降。反権力・内部告発の受け皿・裏取り至上主義が国民に受け入れられたから。

文藝春秋が「表の権威」なら週刊文春は「裏の監視装置」である。菊池寛が創業した社は今では社員数350人、年商200億円、同社は我が国にとつて不可欠な存在である。菊池寛は歴史の短編小説の完成度を引揚げた功績は認められるが漱石・鴉外ほどの文体革新の評価はなく、純文学派からは「通俗的」「娯乐的」とみなされる。

なるほど、そのような雰囲気は感じる。作家と言うよりも【日本文学の設計者】として文学を【社会に接続】した功績は夏目漱石に匹敵すると評価する向きもある。本は面白くなければいけない。その時代の読まれやすく、受け入れなければ意味がない。



代表作『父帰る』の一場面を表現したブロンズ像～菊池寛生誕地高松市

わたしたちはここにいる 東京トランスマーチ 2025レポート

一般社団法人TransgenderJapan
事務局長 村田 峻一

トランスジェンダー。LGB
BTQ+のT、出生児に外性
器の形などに基づいて判断さ
れた性別（セックス）と自
認する社会的性別（ジェン
ダー）、すなわち性自認が異
なる人々のことだ。性自認
は「男」「女」「どちらでも
ない」「両方」などグラデー
ションがある。トランス人口
を正確に測ることは困難だ
が、多く見積もっても500
人に1人、全人口の0.2%
程度だろうと言われている。

かす」「子どもに無理やり性
転換手術をさせる」などのデ
マを数えあげればきりがな
い。国際的にはキリスト教右
派が旗振り役である。トラン
スを攻撃することでLGB
TQ+のコミュニティ（当
事者の総体）を分断—LGB
without T—し、権利保障を
求める運動の推進力を低下さ
せようとしている。

日本では、神道政治連盟や
日本会議が旗振り役を担って
いる。困ったことに、振られ
た旗に一部のフェミニズム勢
力、すなわち『ジェンダー差
別からの解放』という理念
を忘れ、弱者／被害者たる
女性が弱者／被害者のまま
強者／加害者たる男性から
の「配慮」を勝ちとろうとす
る勢力がついていき、TERP
(Trans-Exclusionary Radical
Feminist)なる勢力が形成さ
れ、トランス差別言説は保革
両方から発信される事態と
なっている。

このような状況とコロナ禍
が重なり、トランスが孤立し
自ら命を絶つかもしれないと
いう危機感が高まった。だか
ら2021年11月20日、国際
トランスジェンダー追悼の日
に合わせて日本初のトランス
に焦点を当てたプライドパ
レード『東京トランススマー
チ』を実施した。



沢山のニューハーフが動く歌舞伎町を
通りかかるマーチ

2025年は、国際的には
トランスに対する差別が一層
強く吹き荒れた1年だった。
アメリカでは大統領の座に返
り咲いたドナルド・トランプ
によって公文書からトランス
の存在が消された。東京トラ
ンスマーチ2025のテーマ
「We are Here〜わたしたち
はここにいます」はこれに対す
る抵抗の意志表示である。

日本では、都議選・参院選
を舞台に「日本人ファース
ト」を合言葉に外国人を犯罪
者予備軍として描き、「日本
人の安心・安全を脅かす」と
声高に叫ぶ排外主義が台頭し
た。構図はトランス差別と同
じだ。旗振り役もほとんど同
じ面子だった。差別者たちが
ターゲットを外国人に定めて
いたため、トランス差別は一
時目立たなくなった。しか
し、外国籍住民のトランスが
いる以上、外国人差別は私た
ちにとって「我が事」である
し、きっかけさえあれば再び
トランス差別が吹き荒れる状
況に変わりはない。

そんな中、2025年11月
22日に開催した東京トラン
スマーチ2025はのべ100
0名が参加する大規模なイベ
ントとなった。おとなり韓国
や台湾をはじめとする海外か
ら、あるいは日本在住の外国
ルーツのトランス当事者も多
数参加してくれた。プース出
展ではトランス当事者団体
はもちろん、同性婚の法制
化を求める訴訟の支援団体
「Marriage for All Japan」の
出展もあり、LGB with Tの
姿勢を示すことができた。



マーチ後の集合写真。これがトランスジェン
ダーの多様性

の街を一周した。トランス差
別への抵抗のみならず、排外
主義への抗議を掲げる参加者
がいるのも東京トランスマー
チの特徴だ。すなわち、トラ
ンス当事者にはひとりひとり
異なるアイデンティティがあ
り、人生があり、表現がある。

この原稿を書いている20
26年1月4日、X上では某
テレビ番組に出演したトラン
ス女性に猛烈な差別を浴びせ
られている。2026年も差
別に抵抗する1年になりそう
だ。本稿を読んでいるあなた
にも力を貸してほしい。紙幅
の都合で端折ったトランスを
めぐる日本の状況の詳細が気
になる方は、一般社団法人
「TransgenderJapan」に連絡し
てほしい。取材でも、講演で
もできる限り応えたいと思う。

江東区から日本の食を考える

世界情勢で

食料が手に入らない不安

江東区議会議員 吉田 要



新型コロナウイルス以降、需要と供給のひずみから物価高騰はジリジリと進み、私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしています。2022年2月には、ロシアがウクライナに対し軍事侵攻を開始。現在も続く状況についてあらゆる角度から論じられています。食糧問題にも大きな影響を及ぼしているということに関心を持ちました。それを実感したのがパンの値上がりです。日本は小麦需要の約9割を輸入に頼っていますが、重要輸ルートである黒海回廊の障害が世界需要をひっ迫し、日本を含めた輸入依存国に価格面で影響を及ぼしたと考えられています。

さらに追い打ちをかけるように、2024年「令和のコロナ騒動」が勃発。当たり前に入手に入っていた食料が手に入らないかもしれない、という不安が広がっています。

私自身は祖父の代から江東

区で生まれ育ち、必要な食品は近所の商店やスーパーで購入するものという認識で、長らく生産現場への想像力が欠如していました。日本の食料自給率は低下の一途を辿っており、地方の人口流出や農家の高齢化など、労働環境の変化は報道で知ることはできません、本質を理解するまでには至っていませんでした。

天候以外の様々なことによっても食糧危機はもたらされる。もし台湾有事が起きてしまつたら日本にどの様な影響があるのか？そんな懸念が大きくなっていききました。

偶然が重なり飲食店を始めることに

そんな折、地元商店街でコロナ禍を機に空き店舗となつてしまった大家さんから、借り手が見つからなく困つているという相談を受けました。時を同じくして、後輩の料理

人から労働環境についての切実な訴えがありました。タイミングとは不思議なものです。私自身といえば農政に対する関心が高まる一方ですが「江東区の一議員に何が出来る？」と悶々とする中でしたので「ならば自分たちの理想的な飲食店を持つ。日本各地の生産地とつながり、直接農家から買い付けを行える関係を構築していこう」と、飲食店を始めることになったのです。

仕入れは通常、問屋や食材商社を通して行うのですが、様々なルートを辿りメインとなる肉や米、野菜や果物などを農家から直接買い付けできるようにになりました。中でも大分県の「あさじ牛」というブランド和牛の畜産農家さんとご縁が繋がったのは大きな出来事でした。実際に生産現場を訪れ、生産者の想いを伺うことができました。ブランドというものは、一朝一夕でつくれるものではありません。ましてや自然や生き物を相手にする農業においてはなおのこと。しかしながら、高品質なものを高く売れる環境をつくつていかなければ、経営が難しくなり次世代に繋いでいくこともできなくなりま

す。それは、食料自給率が下がり続ける日本の農業において、悪循環からの脱却を図ることが難しいことを意味します。

日本の食料自給率アップを消費地から応援したい

私は江東区議会議員を務めさせて頂きながら、いくつかの事業を行っています。区民生活に最も近い自治体議員だからこそ、事業運営をすることで仕入れ価格や光熱費の高騰、補助金の使い勝手、商店街の活性化策や雇用維持の大変さまでを身をもって体感しています。

飲食店を始めたことにより、日本全国の農家さんと繋がり、直接お話をする機会を得ることができるようになりました。ある米農家さんは「米価格の高騰でやつと黒字に転換することができた。生産量も価格も決まっているため、どうしても赤字から脱却できなかったが、先祖伝来の農地を守るため、米作りを辞めることはできなかった」と

話してくれました。私たちは急激な価格高騰で苦しんでいましたが、生産する側も大変なご苦労されていることを知ることができたのです。

国会では、増産のありかたや需要予測をより正確に行うべきなどの議論がなされておりますが、個人的には「農業が儲かる産業であるか」だと考えます。使命感だけでは次代に繋いでいくことは難しい。だからこそ産業として魅力ある環境を、政治の役割として整えるべきであります。そして農産物を生産できない都心区の役割は、消費地として生産地を応援することです。消費教育を推進すること、持続可能な食材の調達について大切さを知り、食品ロスを防ぐ行動に繋がります。また、地産地消の促進が輸入に依存し過ぎない日本の農業の再構築に繋がると考えます。

私個人は飲食店経営を通じて日本各地の農家から生産地の現状を学び、また運営する子ども食堂の活動も通じ、食品ロスや農業を考える取り組みに繋げていけるよう引き続き行動して参ります。

吉田要プロフィール～父・吉田明（元江東区議）母・吉田和子（元衆議院議員）のもとに生まれる。小学生の頃から議会傍聴に通い、政治に強い関心を持ち育つ。大手保険代理店にて営業として勤務後、地域に根ざした仕事がしたいと独立。その後デイサービス運営をしながら区議選へ立候補し初当選。現在は区内にて妻、娘と暮らす。柔道2段の腕前。現在江東区議3期目。



本誌79号で多数決は民主主義かと問い、以後、風と土の民主主義、小さな町の議会選挙と民主主義、変わらない、変われない、中・山間地の自治体選挙の宿根の実相を語りつつ、82号でそんな自治体にも、一陣の新風が吹き始めた、と記した。

本編では、その一陣の風がどのようなものか、考えてみた。

一昨年4月の統一地方選挙で、長野県の東部、佐久地方の幾つかの市町村で地元ゆかりの少ない、住民となって数年という若い移住者が果敢に挑戦し、上位当選という快挙を成し遂げ、地域に『まさ

か』という大きな驚きを与えた。それを私は一陣の風と称し、それは、農山村に地殻変動をもたらす風となるのか、あるいはSNSなどに触発される一時的な風なるファッションのような風が農山村にも吹いたのか、考察してみた。

まずは、いずれの風か分らないが、閉塞感の打破を求め風には違いない。

農山村には、よそ者を排除する意識が残っている。町に嫁いで来た女性は、何年経っても、他所(よそ)の人と評され、地で生まれ育った女性と一線を画される。そこには『排除』の意識が見え隠れする。排除は、一方で旧態の価値観への同調圧力を生み、他方で根つからの住民への求心性を高め、これが議会選挙で大きな力を生み、変わらぬ、変えようとしぬ議員を押し上げる。これらの議員が多数を占め、首長のイエスマンとなって議会の刷新を妨げる。このような議会に対する反発が、他所からやってきた若い議員を押し上げる。

新参議員に感じられることは、田舎で自らの価値観、人生観に添った暮らしを見出し

たいと移住した人、地域づくり協力隊としてやってきた人、有機農業を志し、安心安全な食の自給を志す人などが多い。そんな移住者が、しかし志した暮らし方が地域のしきたりや価値観などと齟齬をきたし、軋轢を生み、それって何か、おかしくない? という素朴な疑問を抱き、そのまま実直に、改革や刷新を求めて政治の世界に飛び込んできたようにも思われる。彼・彼女たちは選挙を厭わない。

落ちて、失うものはない。ダメモトの強さがある。このような潔さ、清潔感が有権者の支持を集めているように思われる。



この流れは、戦後大流行した歌謡曲、青い山脈で「古い上着よ、さようなら」と歌われたように、旧態の上着を脱いで、新しい衣装を身に纏うような、軽くて明るい、屈託のない感覚が感じられる。

このような若手候補に対し、有権者は主義主張の前に、「サムシング・ニュー」(SOMETHING NEW/何かしら新しい)という感覚をもって受け止めたように思える。

「サムシング・ニュー」、これは、企業が商品の差別化を図り『飽き』を刷新し、需要を喚起するマーケティングの手法の一つで、もやもやとした旧態然とした議会に対し、変化への期待が込められているのではないだろうか。

政治が、ファッション感覚で捉えられ、有権者がそれを



若手議員の台頭は、今後の農山村社会の議会をどのように変革させるのか、そもそも、変革の力になり得るのか、節度ある、活力に満ちた地方自治政治への取り組みにどう関われるのか、一陣の風で終わるのか、これからの活動に注視したい。

良し、とした時、呼び起こされるのは、戦前の大正デモクラシーの時代と、その後生じた軍国化/ファシズムの台頭という、暗い歴史である。世相が自由を謳歌し、左に大きく触れ(左傾化)、逆に過度の自由を宥める保守の流れ(右傾化)に反転し、いつしか左と右が同床異夢のまま、異趣同舟となって挙国一致/大政翼賛会を生み出し、満州事変から世界大戦へと突き進んだ暗い歴史が思い起こされる。



わたなべ通信36号

隠された「第四の被曝」

国家による秘密強要の暴力

東京造形大学名誉教授 前田 朗

「第四の被曝」は、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニに続く第四の事件という意味である。二〇二四年九月に放映されたNHKスペシャル『封じられた「第四の被曝」』なぜ夫は死んだのか』に由来する。

一九五四年のビキニ水爆実験ブラボーによる被曝は第五福竜丸事件として記憶に刻まれている。四年後の一九五八年に起きた「第四の被曝」はほとんど記憶されていない。NHKスペシャルは事件に光を当て、関係者に取材を積み重ねて真相解明に挑んだ。番組放映を受けて、神奈川県市民や関係者が「『第四の被曝』を広める会」(代表・大蔵律子前平塚市長)を立ち上げ、二〇二五年七月一二日、神奈川県平塚市で集会を開いた。

一九五八年七月一二日、ビキニ西方海上でのアメリカの水爆実験ポプラ(広島原爆の六〇〇倍)によって、海上保安庁の測量船「拓洋」と巡視船「さつま」の乗員一三人

が被曝した。一年後、拓洋の機関士永野博吉(三四歳)が急性骨髄性白血病で死亡した。

一九五四年の第五福竜丸事件の四年後、六〇年日米安保を迎える時期であった。アメリカも日本も「第二の第五福竜丸事件」を必死になってもみ消した。アメリカ核実験報告書に「即座に福竜丸事件を日本人に思い起こさせた。核実験を巡る日米対立を悪化させる可能性を否定できない」と書かれている。

永野機関士の妻は、日本政府から「日本だけでなく、アメリカも絡んでいるから」と口止めされた。海上保安庁職員であったため、国の方針に従わざるを得なかった。

米軍医報告書によると、例えば、乗員二四人のうち一人に重度を含む白血球減少があったという。アメリカ核実験司令部軍医のラルフ・シヨース医師作成報告書によると、乗員のリンパ球の現象は驚くべきものだった。急性

被曝の典型的な症状であり、報告書には「このような所見は放射線障害、もしくは五〇〇ミリシーベルトSv以上被曝した場合の急性被曝と関連付けられることに疑問の余地はない」と記載されている。



しかし、シヨース医師は「算出した微量の被曝線量では、健康への影響はない」と結論づけた。矛盾した記述である。

拓洋の甲板次長赤木恵一(当時三四歳)が遺族に残した歯を岡山理科大学で検査したところ、判明した被曝線量は一四三ミリSvであった。広島島の爆心地から一・八キロの場所にいた人の被曝線量に相当すると言う。

隠蔽のメカニズムはこうだ。第一に拓洋の被曝状況の徹底解明を怠る。甲板等の被曝を一応測定するが、全体の解明は行わない。乗員たちには被曝についての十分な知識を与えない。

第二に被曝と発症の因果関係を否定する。日本政府は、被曝線量は「微量」であり、白血病と「直接関連づけられることは困難」と結論づけた。

第三に被曝許容量という概念を発明する。被害者補償を否定するために「被曝基準」を設けて「一般市民を教育する」。核実験を許容するための基準である。

第四に遺族を沈黙に追いやる。永野博吉さんの妻には沈黙が強要された。妻は「宿命」という言葉を繰り返しながら、不条理に耐えた。そして、人生の最後に、国家による秘密強要の暴力に抗って証言をした。

他の一二人の乗員たちも不安を抱えながらの人生を余儀なくされた。それから六〇年余り、事件は闇に閉ざされた。

「『第四の被曝』を広める会」と遺族のアケミさんは沈



『第四の被曝を再考する』～映像と講演の集い

黙の壁を破って立ち上がった。「なぜ父の受けた放射線量が微量と判断され、白血病との因果関係は認められないのか」、「なぜ母は父の死を『宿命』と受け止め、六五年もの間、秘密にしていなければならなかったのか」と国に対して問うていくと言う。

「広める会」は神奈川県内で学習会を続けている。本年二月七日には平塚市中央公民館で「第四の被曝を広める」学習会を開催した。本年七月には大規模集会を開催して、全国に訴えていく。国会質疑を実現して日本政府に情報公開させ、第四の被曝の真相を究明する闘いが始まった。

読者のひろば

大輪逃す

森川 澄子

昨年、私がわくわくしながら目を止めていたのは、プランターに植えたバラである。

真冬に挿し木したのが根付いて、6月に淡いクリーム色の花を咲かせた。咲き終わった花を切り取ると、すぐ新芽が出て花が咲いた。この繰り返しで晩秋になっても続いた。

そろそろ冬支度の剪定を、と思っていた頃だから11月に入ってからだ。根元近くから新芽が伸び出した。根に近いため栄養の吸収がよいのだろう。寒いのに異様な元気さで、枝は太く、葉も大きい。先端で二本になり、それぞれに蕾を付けた。うち片方がこれまた大きい。一番膨らんだところを測ったら12センチ、ちなみに他は8センチ前後である。

置いてあるベランダは日当たりがいい。だが12月の寒さは植物とはいえ堪えるに違いない。夜はビニール袋を被せ

たりしたが、なかなか開かない。そこで思い切って切り花にして暖かい部屋に置いた。

大きい花を想像し、それを見たい一心だった。正月が過ぎたら、花弁が一枚、心持ち開いた。だが、それだけで万事休す。花は力尽きた。



最近、通りすがりの家の庭に、ピンクのバラが咲いているのを見つけた。真冬でも屋外で咲く品種があったのだ。

「しまった」。あるとき、情をかけずに切らなかつたら咲いたかもしれない。「冬薔薇」という季語もあるのに、私は思いが至らなかつた。

我が家の折角の大輪、大魚を逃したようで悔やまれる。今年はお節介をやめ、自然にまかせよう。



編集余話

84号は政治的な誌面ばかりになってしまったことをお詫びします。

今回ほど編集に困ったことはない。高市首相の不用意な発言で日中が険悪になって関係者は大困惑。間違った愛国者はこれをテコに中国非難を始めた。平和主義の本誌は良識ある友好的な中国の中国人に寄稿をお願いしたのが特集ページです。

いずれも彼らの文をそのまま掲載しました。読者の皆さんには或いはものたりなさを感じるむきもあるかと思えます。いずれの寄稿者もメールなどでは当局がチェックされるので注意深い表現になっています。他には夫婦で相談の上、政治的な文は遠慮すると中国人知人もいました。

親日でなくても、外国を知る中国人は日本に親しみと好意と友好感を持っています。首相も嫌中派の方にもその点を是非理解してもらいたい。何とか中国も政治的にも民主主義的にも発展してもらいたいと切に願います。

遠回りですがそれには経済、民間、文化交流を重ねることです。そして一番近回りは毎年交互に日中首脳が訪問することではないでしょうか。

戦争を避ける為に戦争の準備をする—そんな論理が永遠に続けられるのでしょうか。今一つ、その首相が急に

「当誌の当初の発行予定日頃の選挙を実施」と言い出した。これには当誌も大迷惑。選挙直後の発行なら選挙とその後政局について触れない訳にはいかない。そこで4頁増ページを決した。

創刊以来初めての英断だ(?)。そして当落に関わらず、寄稿を引き受けてもらう交渉に入った。幸い4人の方が応じてくれました。しかし焼け野原と言われる程の野党の大敗。そんなショック・混乱に原稿の催促…。

ところが、奇跡的にも依頼した候補のお二人が比例復活で当選! 菊田氏の寄稿は実感のこもった熱意と気持ちの溢れた文であり菊田陣営の雰囲気感が深く感じられ、両手を挙げる皆さんの表情に胸を打たれます。

小西議員の悔しさにじむ深

層は「おじけるな、闘うべき時は闘え」と説く。

小誌も対立構図を明確に示せなかったのは戦う姿勢に欠けていた。元議員の井戸まさえさんは元立憲の立場で国民から立候補されて比例復活で三度目の復帰挑戦を果たされた。中道との橋渡しを期待したい。

細田公明党都議の寄稿からナルホド自民党より立憲との融和性が高いと改めて感じた次第です。

編集余話

今回は衆院選の結果を見て届く原稿が送られてきたのは校了前のわずか四日前。これが全5頁で、ここから段組を設定して、添付写真のレイアウトを考え、ああでもない、こうでもない、一体、どないせい言うねん! と大阪弁でぼやきながら、なんとか仕上げました。



衆院選 2026 特集

第51回衆議院選挙を経て

中道が団結して出発し

希望の未来を

公明党都議会議員 細田 いさむ



今回の奇襲とも言える真冬の衆議院選挙は、解散から僅か16日間という戦後最短の期間で行われました。いったい何のための選挙戦だったのでしようか。国会での予算成立を遅らせて実施をすべき選挙だったのでしようか。

現政権に白紙委任状を出さないため、電光石火、結党されこの選挙に挑戦したファースト・ペンギンたちが『中道改革連合(中道)』でした。中道には、立憲民主党・公明党を離党して、生活者ファーストの政策の5本柱(現役世代も安心の社会保障、選択肢と可能性を広げる包摂社会の構築、一人当たりのGDP倍増、現実的な外交防衛、政治改革の断行など)を掲げ、了承した多くの候補者たちが、ただ、この旗のもとに集い獅子奮迅で選挙を戦いました。

小選挙区で7人が激戦を制

し、比例区で42人が当選、合計は49議席にとどまり、議席を大きく減らす結果となりました。

公明党の私も、中道の同志・酒井なつみ候補の必勝を期して、比例区の中道の押し上げと共に、何度も街頭でマイクを握り渾身の力で訴えました。これまでの国政選挙以上に必死になって応援しました。もちろん、都議会や区議会など地方議会の仲間たちも同様です。我がこととして、時間が無い中、時を惜しんで全力で応援をしていました。

結党から日が浅く、超短期決戦のために「中道」という新たな選択肢が、説明され浸透していく時間が圧倒的に足りなかったこともあり、中道の旗の下に集った多くの同志の方々が落選したことは痛恨の極みであります。

「中道」に深いご支援とご理解を寄せてくださった皆

様、真冬の厳しい寒さの中、「中道」を力強く支え、真心からのご支援を頂いた皆様から中道を支援する同志の一人として心からの敬意を表し御礼を申し上げます。

中道の得た議席数は自民党と比べて6分の1ですが、比例区票数では半分の1043万票を獲得です。民意の反映という視点では『中道、頑張れ!!』という大きな期待を確かに頂戴できました。現在、日本の平和を守るには中道が必要です

自維政権は「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」とした国是である「非核三原則」を見直す動きを見せ、高市首相はいまだ非核三原則の堅持を明言しません。加えて、日本維新の会は米

軍の核兵器を日本国内に配備する「核共有」を含む「拡大抑止に関する議論を開始する」としています。このままでは、唯一の戦争被爆国として平和国家への歩みを進めてきた日本の国際的な信用が失墜してしまいます。

現政権は大きく右に急旋回していますが、中道が塊となりブレキを踏んで、真ん中

に戻していくことを大いに期待しています。

また、国民の政治不信を招いた自民党派閥の、いわゆる『裏金事件』は、いまだ全容が解明されていません。にもかかわらず、今回の衆院選で裏金事件に関係した議員四十人以上が自民党の公認候補者となり当選しました。政治とカネに問題に決着をつけることができるのは、クリーンな政治を実現していく中道の塊だと思えます。

今、日本の進路は重要な分岐点にあるのではないでしようか。

問われるのは「国の為に国民がいる」のか、「国民の為に国があるのか」の分かれ道です。それが明らかになった選挙戦でした。

後者を選び進むのは中道です。中道は「国の為に人々がいるのではなく、人々の為に国がある。」として人間中心主義の道を歩みます。

だから、「日本の平和を守る。だから生活者ファーストの社会を作れる」と私は思っています。

江東区の中道候補者であった「酒井なつみ」さんは、中

道は「希望」だと言っていました。私も同感です。中道の皆さん、どうか団結して、集まった力を何倍にもして、力強く出発してください。アメリカの詩人のWホイットマンの言葉を中道ファースト・ペンギンの方々に贈ります。

「さあ、出発しよう！悪戦苦闘を突き抜けて！決められた決勝点は取り消すことができないのだ」



東京15区中道党の酒井なつみの応援をする公明党の細田いさむ都議と高村きよみ区議



出陣の日、細田江東区都議(写真左)と連合東京・斎藤あき会長が酒井なつみ候補を街頭応援。門前仲町にて

細田いさむプロフィール～現在3期目。公明党東京都本部の副幹事長・都民運動局長、都議会公明党の副幹事長も務める。1961年生まれで創価大学経営学部卒。国会議員秘書を経て中小企業の事業本部長として現場を経験し、区議を3期、都議を2017年から務める。防災や子育て支援、中小企業支援などの政策に力を入れている。